

Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM) のご案内

岡田 裕 JACM 会長 (東京理科大学)

Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM) が 2019 年 12 月 18 日 (水) ~ 21 日 (金) に台湾, 台北で開催されます。

詳細は会議の詳細は WEB ページ:

<http://www.apcom2019.org/>

に掲載されております。以下に重要な締切日を列举致します。

2019 年

1 月 15 日 ミニシンポジウム提案締切

1 月 25 日 ~ 4 月 15 日 講演申込 / アブストラクト提出

4 月 30 日 講演 / アブストラクト採択通知

5 月 16 日 ~ 8 月 15 日 早期参加登録

8 月 16 日 ~ 11 月 15 日 通常参加登録

11 月 16 日 ~ 後期 / オンサイト参加登録

状況により変更があるかもしれませんので WEB ページを適宜ご覧下さい。JACM 総会ならびに 2019 JACM Awards 授賞式を APCOM 期間中に開催致します。JACM 会員の皆様に おかれては本会議に奮ってご参加の程お願いいたします。

2019 JACM Awards の募集

岡田 裕 JACM 会長 (東京理科大学)

日本計算力学連合 (JACM) は、計算力学分野における顕著な功績および業績をあげた研究者を表彰する 3 種類の JACM Awards の候補者を募集します。JACM 会員におかれましては、候補者を自薦他薦で奮ってご推薦下さい。Award 受賞者には、2019 年 12 月 18 日 - 21 日に台湾 台北で開催されます Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM 2019) (<http://www.apcom2019.org/>) の会議中に開催されます 2019 JACM 総会において表彰予定です。

The JACM Computational Mechanics Award

日本計算力学賞 (3 名以内)

計算力学の広い分野での顕著な研究業績, ソフトウェア開発, 計算技術開発に対して与えられる。

The JACM Young Investigator Award

日本計算力学奨励賞 (3 名以内)

計算力学分野で顕著な業績及び研究を行った 40 才以下 (表彰年内に 41 才になってはならないこと) の研究者に与えられる。

The JACM Fellows Award

日本計算力学連合フェロー賞 (5 名以内)

計算力学分野で顕著な業績を上げ, JACM へのサポート, および IACM 関連国際学会に貢献した研究者に対して与えられる。

過去の受賞者は, 下記 URL で一覧できます。

<https://ja-cm.org/Japanese/Award/past.html>

推薦書に記載して頂く項目は以下の通りです。

1. 推薦しようとしている Award の名称
2. 候補者の氏名, 所属・住所, e-mail アドレス (奨励賞候補者は生年月日も記載のこと)
3. 推薦者の氏名, 所属・住所, e-mail アドレス
4. 主な受賞歴を含む経歴 (最大 10 行以内)

完全なリストである必要はありません。最近のもの, あるいは最も重要なポストを記載してください。

5. 候補者の最も主要な功績あるいは業績の簡潔な記述 (500 字以内)。特に, その Award の候補者として推薦する理由がわかるように記載してください。

推薦状のフォーマット兼例文は, 同じ URL にあります。推薦書は, 2019 年 4 月 30 日 (火) までに e-mail にて, 次のアドレスにお送りください。

送付先: hokada@rs.noda.tus.ac.jp

なお, 受賞者は主に日本国内において活動した研究者 (外国人も含む) となっています。受賞者及び推薦者は, 応募時点で JACM 会員であることが必要です。

第 8 回計算力学シンポジウム報告

岡田 裕 JACM 会長（東京理科大学）

2018 年 12 月 12 日に、日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会主催による、第 8 回計算力学シンポジウムが開催されました。JACM 会長として参加しましたので、簡単に報告させていただきます。計算力学シンポジウムの運営は、参加学会の輪番制で行われ、今回第 8 回計算力学シンポジウムは「日本機械学会計算力学部門」（部門長 越塚誠一 東京大学大学院教授）が中心となり実施されました。

計算力学シンポジウムは、日本を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の研究成果を披露するとともに、最もホットと思われるトピックスについて関係分野の第一人者の方々のパネル討論を行うものです。参加学会は、「可視化情報学会」、「CAE 懇話会」、「日本応用数理学会」、「日本機械学会・計算力学部門」、「日本計算工学会」、「日本計算数理工学会」、「日本計算力学連合」、「日本シミュレーション学会」、「アジア太平洋計算力学連合」、「国際計算力学連合」の 10 学会です。うち国際組織である「アジア太平洋計算力学連合」、「国際計算力学連合」を除く 8 学会を代表する若手研究者の方々が講演をされました。それらの若手研究者は、参加学会の奨励賞や Young Investigator Award 等を受賞された、概ね 40 歳以下の方々です。JACM（日本計算力学連合）からは、2018 JACM Young Investigator Award 受賞者である、Tinh Q. Bui 東京工業大学大学院特任准教授を推薦し、「Stochastic High-Performance Computing for Modeling Spot-Welds Failure」という題目の下、自動車の車体組立で多用される、スポット溶接の破断過程の予測シミュレーションについてご講演を頂きました。以下、各参加学会を代表され講演された方々と講演題目を紹介します（講演順）。

CAE 懇話会：高木洋平 横浜国立大学大学院准教授、「計算流体力学（CFD）における AI・深層学習の応用：ニューラルネットワークによる代理モデル」

日本機械学会計算力学部門：田中展 大阪大学大学院講師、「計算力学に基づくセル状固体の非線形力学特性の解明とその応用」

日本計算工学会：西浦泰介 海洋研究開発機構主任技術研究員、「世界最大の個別要素法を用いた砂箱シミュレーション～断層地盤内部の応力状態と円弧状地形の関係～」

日本計算力学連合：Tinh Q. Bui 東京工業大学大学院特任准教授、「Stochastic High-Performance Computing for Modeling Spot-Welds Failure」

日本シミュレーション学会：山田知典 東京大学大学院准教授、「大規模マルチフィジックスシミュレーションの進展」

可視化情報学会：竹島由里子 東京工科大学大学院教授、「微分位相幾何学と可視化」

日本応用数理学会：井元佑介 東北大学知の創出センター特任助教、「粒子法を用いた非圧縮性流れシミュレーションの安定性解析」

日本計算数理工学会：飯盛浩司 名古屋大学大学院助教、「境界要素法を用いたトポロジー最適化について」

の紹介を行いました。

午前 10 時に、吉村忍（日本学術会議会員、東京大学大学院教授）による開会の辞によりシンポジウムが始まり、昼休みを挟み、16 時位まで各学会推薦の若手研究者講演が続きました。その後、第 II 部としてパネル討論「Society5.0 を支える人と人工物システム・サービスの計算情報科学基盤創成」が平野徹氏（日本学術会議計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算力学小委員会幹事、ダイキン情報システム株式会社シニアスキルスペシャリスト、CAE 懇話会理事長、大阪工業大学客員教授）の司会により、行われました。平野氏のパネル討論趣旨説明に続き、パネラーの方々のプレゼンテーション、総合討論が行われました。登壇したパネラーの方々は、村川正宏 産業技術総合研究所人工知能研究センター総括企画主幹、依田高典 京都大学大学院経済学研究科教授、奥田洋司 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻教授（JACM 副会長）でした。Society 5.0 で掲げられている「サイバー空間とフィジカル空間高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」構築に関する議論がされました。もう少し時間があればもっと深い議論ができたと思うのですが、今後別の講演会等でも議論されることを期待したいと思います。

最後に、萩原一郎（日本学術会議連携会員、明治大学特任教授）の閉会の辞によりシンポジウムは終了しました。

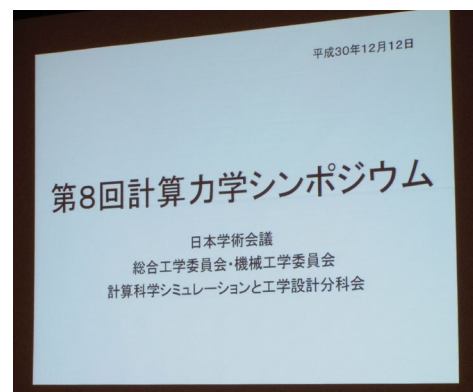


写真 1 第 8 回計算力学シンポジウム



写真 2 第 8 回計算力学シンポジウム講演者、パネル討論パネラー、各学会代表者の集合写真

なお、学協会の会長等代表者が書く学会や講演者の略歴等